

氏名： 松島 悦子 (MATSUSHIMA Etsuko)
所属： 教育事業部 (食育の実践と教育プログラム)
学位： 修士 (社会学)
職名： 講師
専門分野： 食育、食生活、家族関係学、家族社会学、消費者教育学
URL： <http://www.cf.ocha.ac.jp/shokuiku/>
E-mail： matsushima.etsuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

共食/家族関係/ネットワーク/子育て期の母親/食育
eating together / family relations / network / mothers with children / dietary education

◆主要業績

- 松島悦子「母親と父親の調理態度が、家族の共食と中学生の調理態度に与える影響」日本家政学会誌 vol.58(12),743-752 (2007)
- 松島悦子「母親・父親の調理と家族の共食が中学生の調理参加に与える影響」(2007年3月)、食育プロジェクト ONESS (Ochanomizu Nutrition Education SOKUIKU Study) における研究報告
- 松島悦子「食育とオープンキッチンの効用」『住まいづくり選書1. 子育て日和』ミサワホーム総合研究所、151-156 (2007)
- 『食育プロジェクト平成19年度活動報告書』(平成20年3月)作成、発行
- 講演「家庭での食育は、家族皆の食の自立から」(2007年9月22日)お茶の水女子大学本学主催「食育シンポジウムと展示会」

◆研究内容 / Research Pursuits

食生活に関する社会科学的な研究を行っている。以前所属していた企業の生活研究所では、さまざまなライフステージや世代などのセグメント別に食生活の実態を掴み、近未来の予測などを行っていた。2007年5月よりお茶大の食育プロジェクトに所属が変わり、以下のような研究を主に行っている。

1. 家庭での食育に活用するため、家族関係学からのアプローチで研究を行った。食育プロジェクトの ONESS (Ochanomizu Nutrition Education SOKUIKU Study) の一環として、附属中学校の生徒と保護者を対象として調査を行い、親子関係を切り口に分析した。その結果、母親だけでなく父親の食への関心の高さが子どもの調理参加意識などに影響を与えることがわかった。詳細は、「食育プロジェクト平成19年度活動報告書」参照。
2. 東京圏居住の中学生に対する調査を行い、子どもの調理への意識は父親の影響が大きいという1とほぼ同様な結果を得た。
3. 企業からの受託研究で、児童に対する紙芝居による食育効果について検証を行った。未発表のため詳細は述べられないが、ターゲットとした学年で顕著な効果が認められた。今後、学会で発表予定。
4. 子育て期の母親に注目し、共食の様々な効果について検討を行っている。

◆研究計画

1. 食育教材の効果に関する研究結果について学会発表するとともに、食育教材の開発をさらに行っていく。
2. 共食の研究については、社会科学的な視点で深く掘り下げ、ネガティブな面も抑える。また、昨年ある企業と行った写真調査の結果も導入し、共食の効果についてさらに検討を進めたい。

◆メッセージ

長く勤めていた企業の研究所から出身大学のお茶大に戻り、1年が経ちました。両者にはいろいろな違いがありますが、最も大きな違いは研究の発想の自由度です。企業には居心地のよい研究環境は整っていましたが、会社に還元される成果が第一に求められました。大学では多々不便はありますが、自分の自由な発想で研究ができます。その素晴らしさを、今しみじみと感じています。